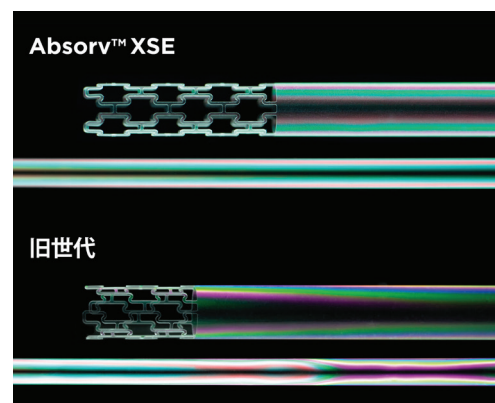


Absorv™ XSE の生体吸収性チューブを最大限に活用する

生体吸収性スキャホールド (BRS) は、通常レーザー加工配向生体吸収性チューブを最終デバイスに組み込むことによって製造されます。歴史的に、これらのデバイスは生体吸収性チューブからレーザー加工によって製造され、従来の金属製スtentと比較して肉厚がより大きい形状でした。加えて、旧世代の配向生体吸収性チューブは、肉厚の均一性に欠け、最終スキャホールドにレーザー加工した際の製造効率もよくありませんでした。

Absorv™ XSE のご紹介 - 比類のないサイズ設定、均一な肉厚、目的に合わせた吸収プロファイルを組み合わせた Absorv™ XSE 配向チューブは、BRS への用途を進化させ、幅広く多様な処置において、金属製スtentに置き換わる、より効率的で予測可能なオプションを設計者に提供しています。



Absorv™ XSE は偏光下で観察されるとおり、優れた肉厚の均一性を示します。

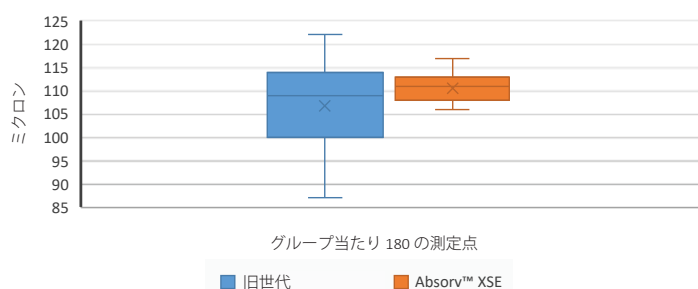
従来の技術と新技術の比較

この新しいソリューションをテストするために、Absorv™ 配向チューブのサンプルが製造されました。1 セットのサンプルが、伝統的なプロセスを使って製造され、一方二番目のセットは、均一性が改善した新しい Absorv™ XSE プロセスを使って製造されました。次にサンプルは、サンプルセットから生産した使用可能なスキャホルダーの数を評価するために、精密レーザー加工の世界的リーダーである MeKo によって設計された市販用のスキャフォルダーをレーザー加工により生成しました。

	スキャホールドの材料	スキャホールド OD	スキャホールドの長さ	支柱の厚さ (標準偏差)	レーザー加工したスキャホールド	拒否されたスキャホールド	使用可能なスキャホールド
Absorv™ (前の世代)	PLLA	3.0 mm	25.0 mm	106.8 μ m (8.23 μ m)	53	14	39
Absorv™ XSE (新しいプロセス)	PLLA	3.0 mm	25.0 mm	110.6 μ m (2.62 μ m)	53	4	49

データ出典: MeKo 特定の精査基準に基づいたスキャホールドの特性結果は、精査要件によって異なる可能性があります。

絶対的なスキャフォルダー支柱の厚さ、旧世代と Absorv™ XSE の比較



データ出典: MeKo

図1: 旧世代の Absorv™ 配向チューブから製造された 30 のスキャホールド 対 新規の Absorv™ XSE 配向チューブから製造された 30 のスキャホールド。各々のスキャホールドについて、支柱厚の測定が3つの別々な軸(左端、中央、右端)で実施され、4つの等距離円周での支柱厚が測定されました。Absorv™ XSE 配向チューブから生成されたスキャホールドは、支柱部の厚みの均一性が大幅に改善したことを示しました。

MeKo
MEDTECH

MeKo はグローバルな ISO 認定の契約製造会社で、高精度レーザー材料加工を専門としています。この会社は、金属や生体吸収性材料から作られたスtentや心臓弁フレームなどの医療製品向けの、レーザー加工、ドリル加工、溶接、処理後サービスに 30 年を超える経験を持っています。

結果

Zeus の新しい Absorv™ XSE 配向チューブは、より長い形状と肉厚の均一性が改善されたことにより、旧世代と比較して、**約25% 多くの利用可能なスキャホールド**を、同じ量のチューブから切断することができました。

これらの結果は、Absorv™ XSE の効率性向上により、製造コストの削減と潜在的な収益増を含む、多大なダウンストリーム・インパクトがお客様にもたらされる可能性があることを示唆しています。

プロトタイプの製造をリクエストする

貴社の次のプロジェクトのために Absorv™ XSE のプロトタイプをリクエストするには zeusinc.com/AbsorvXSE にアクセスしてください。

プロトタイプの製造をリクエストする ➔

免責事項

これは Zeus の以前の Absorv™ チューブ製品と、新しい Absorv™ XSE 製品との比較に基づいた試験を示しています。結果は、使用した材料、スキャホールドの設計、サイズの変更、または精査要件に基づいて異なる可能性があります。これは 1 つの試験に基づいた推定であり、いかなる種類の保証を暗示したり、約束するものではありません。